

信濃川 水辺の楽校つまりっ子ひろばの植物

信濃川の植物

信濃川の昆虫

信濃川の水生物

信濃川の野鳥

信濃川の生き物

信濃川の石



アレチマツヨイグサ (アカバナ科)
(花期:6~9月)
北米原産の二年草。道ばたや荒地、川原などに野生化している。茎は下の方から分かれ、高さ50~150cmになる。花びら(花弁)と花びらとの間にすきまのあるものからないものまで変化が多い。



セイタカアワダチソウ (キク科)
(花期:10~11月)
北米原産の多年草。観賞用に栽培されていたものが野生化した。地下部から種子発芽を抑制する物質を出し、大群落をつくる。



ツルマンネグサ (ベンケイソウ科)
(花期:6~7月)
朝鮮、中国東北部に分布し、古くから日本に帰化していたと考えられる多年草。葉が多肉質。



ハルザキヤマガラシ (アブラナ科)
(花期:4~5月)
ヨーロッパ原産の多年草。山地の川原や湿った草地に群生する。20~60cmの高さになる。



キシウブ (アヤメ科)
(花期:5~6月)
ヨーロッパ原産の多年草。現在では日本全土の湿地に野生化している。ハナショウブとは別種。



ハリエンジュ (マメ科)
(花期:5~6月)
北米原産。全国各地で砂防用に植えられている。崩壊地、川岸、土手などに野生化しているものも多い。



カワラハハコ (キク科)
(花期:8~10月)
川原など荒地に生える、高さ30~50cmになる多年草。茎は下部が枝分かれして、こんもりと丸い株をつくる。



オオウバユリ (ユリ科)
(花期:7~8月)
山野の林に生える多年草。名前の由来は、花が咲く頃に葉が落ちていることから「葉がぬい」を「歯がない(姥・うば)」に掛け合わせ、付けられたと言われている。



カワラマツバ (スイカズラ科)
(花期:7~8月)
やや乾いた日当たりのよい草地に生える多年草。川原で多く見られ、葉が松の葉に似ていることから名付けられた。



アメリカネナシカズラ (ヒルガオ科)
(花期:8~10月)
日当たりのよい山野に生える一年草。長いつるを伸ばし、他の植物にからみつき、寄生根を出し、養分を吸収するようになる。自分の根がなくなることから名付けられた。



ノブドウ (ブドウ科)
(花期:7~8月)
山地や丘陵、野原などに多く見られ、茎の部分は木質化している。つるは長く伸び、ジグザグに曲がる。果実は食べられない。



ヘラオオバコ (オオバコ科)
(花期:6~8月)
へら(スプーン)状の葉の形からその名前が付けられた。ヨーロッパ原産の一年草。



クサフジ (マメ科)
(花期:5~9月)

山野の日当たりのよい草地や林のふちなどに生えるつる性の多年草。葉の先が巻きひげ状になっていて、草などにかみつく。



イタチハギ (マメ科)
(花期:5~6月)

北米原産。道路の法面(※)の緑化や砂防用に植えられている。崩壊地や川原などに野生化している。※法面(のりめん)…工事によって造られた傾斜地の斜面部分。土手。



カワラナデシコ (ナデシコ科)
(花期:7~8月)

山野の日当たりのよい草地や川原に生える、高さ30~80cmの多年草。別名「ヤマトナデシコ」とも呼ばれる。



ネジバナ (ラン科)
(花期:5~8月)

日当たりのよい草地や芝生などに生える。花がらせん状についていることが名前の由来。まれに白花も見られる。



ムシトリナデシコ (ナデシコ科)
(花期:5~6月)

茎の上部の節の下から粘液を出す。これに虫がくっつくことから名付けられた。まれに白花もある。



ネムノキ (マメ科)
(花期:6~7月)

川岸や原野に多く見られる、高さ10mほどの落葉高木。日暮れ時、ゆっくり葉を閉じ始める。また花は夕方開いて、翌日しぼむ。



ヒメスイバ (タデ科)
(花期:5~8月)

ユーラシア原産の多年草。現在では全国各地の道ばたや荒地によく見られる。スイバより小形で、高さ20~30cmになる。



ヤブカンゾウ (ユリ科)
(花期:7~8月)

道ばたや土手、林のふちなどに多い多年草。オレンジ色の八重の花を咲かせる。



クワ (クワ科)
(花期:4~5月)

落葉高木。おしべの株とめしべの株が分かれていて、果実は食べられる。かつては養蚕のために広く栽培されていたものが放置され、野生化している。



ツルウメモドキ (ニシキギ科)
(花期:5~6月)

落葉つる性木本(もくぼん)。長さ数mに達する。おしべの株とめしべの株が分かれている。秋に黄色い果実が熟し、赤い種子が現れる。



スズメウリ (ウリ科)

原野や水辺などに生えるつる性の一年草。果実は、直径約2cmの球形または卵形で、熟すと灰白色になる。果実がカラスウリより小さいことから名付けられたとか、果実をスズメの卵に見たてて名前が付けられたと言われている。



クサソテツ (オンダ科)

シダ類の多年草。平地の山林から、高山帯のやや湿った林や川原などに群生している。別名「コゴミ」と呼ばれ、若芽は食べられる。

水辺の楽校つまりっ子ひろばの植物

●ひとにとって好ましくない植物



ガガイモ
(ガガイモ科)
日当たりのよい野
や乾いた原野に生
えるつる性の多年
草。地下茎を長く
伸ばして増える。
根には毒があるた
め要注意。
(花期:8月)



ヌルデ
(ウルシ科)
平地から低山地の
林のふちにかけて
見られる落葉小高
木。樹液に触れる
とかぶれる。特に
若葉のころは要注
意。
(花期:8~9月)



アレチウリ
(ウリ科)
北米原産のつる性
の一年草。川原や
荒地でよく見られ
る。繁茂して他の
植物をおおい隠す。
(花期:8~9月)



クサノオウ
(ケシ科)
日当たりのよい道
ばたや、林のふち
に生える、高さ30
~80cmの二年草。
茎や葉を切ると、
黄色い、毒のある
乳液が出る。
(花期:4~7月)



オオブタクサ
(キク科)
北米原産の一年草。
河川敷などに多く
生える。現在では
雑草化し、夏から
秋にかけての花粉
症の原因のひとつ
となっている。
(花期:7~8月)

●花と果実

コマツナギ(マメ科)

茎は細いが、馬をつなげるほど丈夫であることが名前の由来。草地や川の土手、道ばたの日当たりがよく、やや乾いたところに群生する。ミヤマシジミの食草として知られる。



花期 / 6 ~ 8月



結実期 / 10 ~ 11月

ノイバラ(バラ科)

川原、原野、林のふちなどに生える、高さ2mほどの落葉低木。茎は直立し、秋には赤い果実をつける。「ローズヒップ」としてハーブティーの原料として使用される。



花期 / 5 ~ 6月



結実期 / 10 ~ 11月

ヤマノイモ(ヤマノイモ科)

山野に生えるつる性の多年草。「自然薯(なんじゆ)」と呼ばれ、栽培される「長いも」と区別される。根と多肉質のむかごは食べることができる。



花期 / 7 ~ 8月



球芽期 / 10月

アキグミ(グミ科)

日当たりのよい川原や原野、道ばた、川岸のれき地などに生える落葉低木。秋には果実が赤く熟し、食べることができる。



花期 / 5 ~ 6月



結実期 / 9 ~ 10月